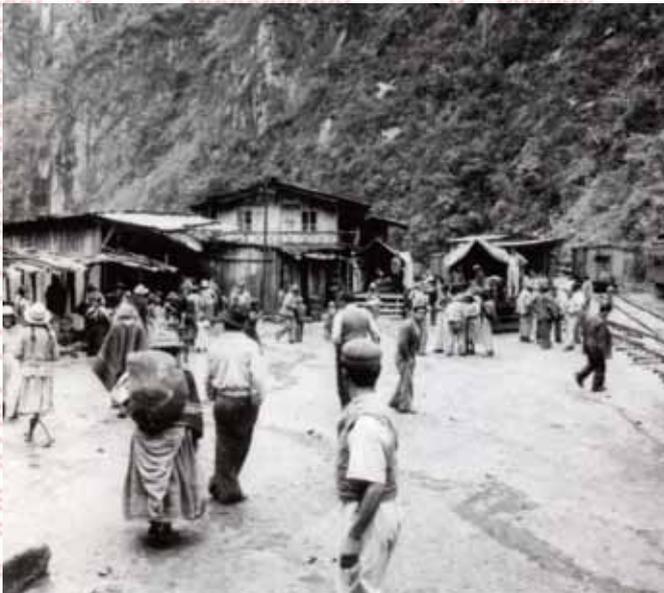


海外移住 資料館だより

日本人の海外移住は100年以上の歴史があります。JICA横浜 海外移住資料館では、海外へ移住し、それぞれの国や地域で新しい文明作りに参加してきた日本人移住者の歴史と、その子孫である日系人について広く理解を深めてもらうことを目的に、さまざまな資料を展示しています。

■発行元：JICA横浜 海外移住資料館
神奈川県横浜市中区新港2-3-1 JICA横浜2階
Tel:045-663-3257(代) URL: <https://www.jica.go.jp/jomm>
■編集発行人：JICA横浜 海外移住資料館 館長 熊谷晃子

マチュピチュ村をつくった男 野内与吉



約80年前のマチュピチュ村(左)と現在の姿(右) ©一般社団法人 野内与吉資料館

企画展示

ペルー日本人移民120周年記念企画展示
**マチュピチュ村を拓いた男
野内与吉と
ペルー日本人移民の歴史**

3月2日(土)～5月26日(日)
JICA横浜 海外移住資料館(企画展示室)

公開講座

**ペルー日本人移民の歴史と
マチュピチュ村を創った野内与吉の生涯**

3月23日(土) 14:00-15:30

講師 野内セサル良郎 氏
(日本マチュピチュ協会会長、一般社団法人 野内与吉資料館代表理事)

会場 JICA横浜 会議室1

※講座終了後、海外移住資料館企画展示室にて展示解説も行います

入場無料・予約不要

ペルーに渡った日本人たちの足跡

南米で最初に日本人が移住した国、ペルー。サトウキビ耕地での契約労働者に始まり、都市部への進出と日系人社会の形成、第二次世界大戦等の困難を乗り越え、ペルー社会のさまざまな分野で活躍するようになって120年。1990年には日系大統領も誕生しました。しかし近年は、人種の混合と他の文化への同化が広く進んでいます。

- 1899 明治32年 第一回移民団790人(男性のみ)が横浜港から「佐倉丸」で出港、カヤオ港に到着
- 1903 明治36年 第二回移民団1,177人(うち女性108人)が到着
- 1913 大正 2年 中南米初の邦字新聞「アンデス時報」創刊
- 1915 大正 4年 リマに日本人商業組合設立
- 1917 大正 6年 ペルー中央日本人会設立
- 1920 大正 9年 リマに日本人小学校が開校
- 1923 大正12年 契約移民終了。これ以降は呼び寄せ



第一回移民団が乗った「佐倉丸」

1899年、「佐倉丸」にはサトウキビ耕地の労働者として4年の契約を結んだ790人の日本人男性が乗っていました。この第一回移民団は、厳しい労働環境やマラリア・チフスなどの風土病で初年度に124人が命を落としたといえます。第二回以降は女性を含む家族移民が送り出されるようになり、契約期間も大幅に短縮。契約満了後は都市に仕事を求め商売を始める人が増えました。次第に日本人による団体や組合が全国に設立され、リマには日本人学校が開校。1923年までに、83回の航海で18,727人の契約移民がペルーに渡りました。



大農園にて(ラ・リベルタ県トルヒーリョ郡にあるコルティホ農園)



リマ暴動の様子

- 1930 年代 日米関係が悪化。親米国ペルーでは反日感情が高まる
- 1940 昭和15年 日本人商店が襲撃され、被害者のうち54家族、316人が日本に帰国
- 1941 昭和16年 太平洋戦争勃発
- 1942 昭和17年 ペルー政府が日本との国交を断絶。日本人外交官と在留日本人有力者を米国の収容所へ強制移送。日系人資産凍結、集会禁止、日本人学校の没収、日本語新聞発行禁止など処分多数



米国に強制移送される在ペルー日本人

1923年以降は「呼び寄せ移民」が盛んに行われ、日本人特有の助け合い精神のおかげで都市部での商業やサービス業で成功する日本人が現れました。また、先に移住した男性と写真や手紙をやりとりして「写真結婚」した女性たちが大勢ペルーにやってくるなど、1930年代のリマ首都圏には日本人移民の8割以上が居住。この日本人の目覚ましい進出を脅威に感じたペルー社会は排日感情を高め、1940年には日本人商店が襲撃される反日大暴動が勃発。翌年太平洋戦争が始まると、ペルー政府は日本との国交を断絶し、資金凍結、財産没収、日本人学校閉鎖・没収等を施行。1942年から1945年にかけて在ペルー日本人有力者1,771人を米国収容所へ強制移送しました。

戦後、積極的にペルー社会への同化の道を選ぶようになった日系人。敗戦後の貧しい日本に物資や食料、お金を送る人が増えました。日系二世は高学歴で、医師や技術者、弁護士、薬剤師などが多く輩出され、ペルー社会では日系人の技術への信用が高まりました。1990年には二世のアルベルト・フジモリ氏が大統領に就任。同年、日本の入管法改正で日系人の出稼ぎが活性化し、ペルーからも数万人が、一挙に日本へと渡りました。ペルーの日系社会は働く世代の空洞化と過疎化が進み、一時期弱体化しましたが、近年はペルー日系人協会がJICA理事長賞を受賞するなど、ペルーにおける日系人の活躍は続いています。

- 1950 昭和25年 太平洋クラブ創立。「ペルー新報」創刊
- 1955 昭和30年 ペルー中央日本人会が再結成(のちのペルー日系人協会)
- 1958 昭和33年 毎年150人までの在ペルー邦人親戚の呼び寄せ認める
- 1980 年代 経済危機とゲリラ活発化
- 1990 平成 2年 日系二世のアルベルト・フジモリ氏が大統領に就任
- 1990 年代 日本への出稼ぎブームで日系社会の空洞化と過疎化が進む
- 2018 平成30年 日本・ペルーなど11カ国が環太平洋パートナーシップ(TPP)協定を締結

マチュピチュ村をつくった男

の うち よ きち 野内与吉

年間100万人が訪れるというペルーの世界遺産マチュピチュ遺跡。その玄関口にあるマチュピチュ村をつくったのは、野内与吉という日本人でした。なぜ彼はペルーに移住し、当時まだ無名だったマチュピチュに村をつくったのでしょうか。現地の人々の信頼を得て村長となり、村の発展に尽力した野内与吉の人生を紹介します。

スタート

1917 (大正6) 年

海外で成功したいという夢を抱き、22歳のとき第48回移民団の一員としてペルーに渡る



サン・ニコラスの農園で働く



サン・ニコラスの農園 (ペルー日本人移住史料館「カルロス・千代照・平岡」)

過酷な労働、賃金の未払い

仕事を辞めてペルーの国内を放浪する



1935 (昭和10) 年

自ら建設した「ホテル・ノウチ」を開業 (40歳)

ホテルの1階は郵便局と交番として、2階は裁判所として提供したんだって!

ダムを造り水力発電によって村に電気を通す

川から水を引き、集落まで水路を作る

村のために労を惜みず、人々のために尽くして喜ばれたんだね



与吉 (右) と家族 (1930年代)

マチュピチュ集落に定住、密林を開拓して道路を整備し、畑を作る

1939 (昭和14) 年

マチュピチュ集落の最高責任者である行政官に任命される

英語、スペイン語、ケチュア語などが堪能で遺跡の隅々まで知り尽くしていたことから現地のガイドもつとめる

1941 (昭和16) 年

太平洋戦争はじまる

ペルー各地で日本人が連行され、アメリカに強制移送される中、村人に守られる

1947 (昭和22) 年

マチュピチュ村が大きな土砂災害にあう

ゴール

1983 (昭和58) 年

マチュピチュが世界遺産に認定される

1969 (昭和44) 年

ペルーで永眠 (享年74歳)

1968 (昭和43) 年

51年ぶりに日本へ故郷の福島県大玉村に帰郷

1958 (昭和33) 年

三笠宮殿下がマチュピチュ遺跡を見学
与吉の長女オルガ野内が花束贈呈



野内与吉資料展示室

〒969-1302 福島県安達郡大玉村玉井字西庵183
大玉村農村環境改善センター 2階 視聴覚室内

野内与吉の故郷である福島県大玉村に2017年に開設。現在は村の公共施設に移転。与吉の遺品である手作り工具やペルー移民の歴史などを展示しているほか、ペルーの民族衣装の試着コーナーもあります。入館無料。

開館時間:9:30～16:30(土日祝日休み)

*開館時間はホームページで確認、
または右記にお問い合わせください。
10名以上は団体予約が必要です。



【問い合わせ・団体予約先】一般社団法人 野内与吉資料館
TEL:0243-24-1939

E-mail: nouchi.yokichi.museum@gmail.com

<https://oscar-nouchi-yokichi.wixsite.com/memorial-museum>

野内与吉資料館・館長インタビュー

—どうして野内与吉資料館をつくらうと思ったのですか

いろいろな場所で祖父・野内与吉の歴史を語ってきましたが、世界遺産マチュピチュ遺跡のことは知っていても、マチュピチュ村創設に一人の日本人移民が関わっていた歴史が知られていないと感じました。私は、ペルー日本人移民の歴史として、後世に語り継ぐ必要があると思いました。

—16歳で来日したそうですが、当時の生活はいかがでしたか

日系ペルー人三世の私は、出稼ぎ目的で両親と来日しました。自動車部品工場の製造ラインでシートの組み立てなどの重労働、夜勤もあり非常に過酷な労働でした。工場と寮を行き来する毎日で休めず、注意されても日本語がわからず大変辛かったことを覚えています。

それより辛かったのは、同世代の子たちが学生服で楽しそうに通学する姿を見たときでした。当時、高校への進学は言語の違いや経済的理由により困難だったため断念したからです。ペルーに帰りたいと何度も思いましたが、自分より家族の幸せを選びました。その後、兄弟も日本に呼び寄せ、家族全員で暮らせるようになったのです。

野内与吉
野内セサル良郎さん

1975年ペルー生まれ。野内与吉の孫
日本マチュピチュ協会会長
一般社団法人野内与吉資料館代表理事
マチュピチュ区役所日本特別代表者

と何度も思いましたが、自分より家族の幸せを選びました。その後、兄弟も日本に呼び寄せ、家族全員で暮らせるようになったのです。

—日本で頑張っていこうと決意したのはなぜですか

私より、祖父の時代は比較できないほど過酷だったはず。言葉の壁やさまざまな苦難に耐えて人のために尽力した祖父の血が私にも流れている。何もせずに諦めてはいけない。私の夢である「日本で言語や技術を習得し、ペルーの故郷に貢献できる存在となる」、これを叶えるために耐え忍ぶと決心しました。

—日本マチュピチュ協会を設立したきっかけを教えてください

工場勤務しながら日本語を習得し、定時制高校に入学。その後大学も卒業。就職後も、名古屋国際センターの講師や、東海三県の学校などでペルーの文化を伝える活動を続けました。しかし、ペルーでは未だに多くの子どもたちが経済的理由により就学困難な状況にあり、彼らの将来を案ずる中、自分と重なりました。そして、子どもたちに夢を持つこと諦めない心を伝えたい、祖父が創ったマチュピチュ村に貢献したい、といろいろな強い思いがこみ上げてきました。日本とペルーの橋渡しをしながらこれらの夢を叶えよう決心し、日本マチュピチュ協会を設立しました。

—今後の夢や目標などはありますか

講演やイベント活動を通じてマチュピチュ村への観光促進、保全へとつなげ、ペルー日本人移民の歴史を語り継ぐとともに、子どもたちへの教育支援に加え、障害を持つ子どもへの支援と学校も創りたいです。そして、祖父とペルー日本人移民の歴史を日本だけでなく世界中で発表し、私にこの素晴らしい人生を与えてくれたペルーと日本に恩返しをしたいと思えます。

日本マチュピチュ協会 <http://japanmachupicchu.wixsite.com/peru>

写真提供:一般社団法人 野内与吉資料館



野内与吉(1895年～1969年)
福島県安達郡大玉村出身



1923(大正12)年

カトリックの洗礼を受け、
「オスカル・ノウチ」となる

ペルー国鉄クスコ・
サンタ・アナ鉄道
に勤務



村人と一緒に
地方政府に緊急支援を
依頼した与吉さんは、
翌年村長に
任命されたんだね

1948(昭和23)年

マチュピチュ村復興のため、
村長に任命される(53歳)



与吉(左)と家族(1950年代)

1952(昭和27)年

ペルー国鉄クスコ・サンタ・
アナ鉄道に再就職

アメリカ

全米日系人博物館のノーマン・ミネタ氏らが来館

2018年9月19日、全米日系人博物館からノーマン・ミネタ理事長とアン・バロウズ館長兼CEOほか4名が当資料館を訪れました。

ロサンゼルスにある全米日系人博物館は、日系アメリカ人が辿った歴史を保存し伝えるため1992年に開館しました。理事長であるノーマン・ミネタ氏は、米国のクリントン、ブッシュ両政権で運輸長官、商務長官など閣僚ポストを歴任された日系二世で、第二次世界大戦中は家族とともに日系人収容所に強制収容されたご経験をお持ちです。

当資料館への訪問は今回が初めて。ミネタ氏はとても熱心に展示物をご覧になりました。



展示をご覧になるノーマン・ミネタ氏(手前)

ブラジル

日本移民110周年を祝う

アフリカ大陸の影響を色濃く受けたブラジル。奴隷制度が廃止され、欧州諸国などに続き日本の移住者も移民して110年。多様なブラジル文化形成に日本人・日系人も貢献してきました。そんな日本とブラジルの友好と連携を祝うイベントが、2018年秋に横浜で開催されました。

JICA横浜で9月2日、ブラジル移民の歴史をラップミュージックにのせて歌うラッパーのREI CAPOEIRAPさんをゲストに迎え、音楽ワークショップを開催しました。移民のキーワード



を使って参加者と即興の掛け合いラップを作るなど、大いに盛り上がったこのイベントには、50人以上の方々が参加しました。

「VIVA110!

横浜で祝おうブラジル日本移民110周年」が11月11日にJICA横浜の体育館で行われ、約400人が集いました。



ステージでは伝統芸能であるカポエイラ、パゴージ、アシエなどが次々と披露され、最後はみんなでサンバを踊るなどブラジルー色のお祝いムードになりました。

カナダ

強制収容の「負の歴史」を後世に

カナダのプリティッシュ・コロンビア(B.C.)州・レベルストーク市近郊のスリー・ヴァリー・レイク湖畔で2018年9月28日、真珠湾攻撃後の第二次大戦時中に強制収容された日系カナダ人の「負の歴史」を記した表示板の除幕式が開かれました。2017年10月以降、日系人が戦争で被った悲惨な歴史を伝える表示板が、カナダ大陸横断高速道路1号線を始め、州道3号線、5号線、6号線、31号線、99号線に沿って8カ所に設置されています。

第二次世界大戦ではカナダは日本の敵国となり、B.C.の沿岸部に住んでいた21,000人以上の日本人や日系人は内陸へと追いやられ、財産も没収されて強制収容所での生活を余儀なくされました。18～45歳の男性は道路建設キャンプに送られ、低賃金で過酷な労働を強いられるなど基本的人権を脅かされました。

カナダ政府は1988年に日系人に対する不正義を認め謝罪。2017年には強制収容に関するB.C.州内56カ所を史跡

に指定すると発表しました。日系カナダ人遺産プロジェクト委員会のローラ・サイモト委員長はB.C.州政府のサイト内で、「表示板の設置により、私たちはカナダから誤って根絶された多くの日系カナダ人を尊重するとともに、カナダの間違った歴史について学び、次世代に伝えていきます」と述べています。



日系カナダ人の強制収容の歴史を紹介する表示板の前で ©Howard Shimokura

ようこそ海外移住資料館へ

見学者のニーズにあった学習をサポートします

近年、教育現場では、博物館や郷土資料館を活用したアクティブ・ラーニングを取り入れる学校も増え、当資料館にもさまざまな年齢の子どもたちが訪れます。また、外国人居住者の増加に伴い、自治体職員や教育関係者の訪問も多くなっています。そんな方々のニーズに応えるため、当資料館ではさまざまな学習プログラムをご用意しています。ぜひご利用ください。

小学生

校外学習で訪れる子どもたちは、海外移住の歴史や移民の生活などを詠んだ「移民カルタ」を使って、楽しく学びます。絵札と同じものを資料館の中で探してみよう！



中高生・大学生

修学旅行や校外学習などで当資料館を訪れる中高生たちは、班に分かれて館内を自由に見学します。クイズ形式のワークシートに挑戦し、分からないことは近くにいるボランティアガイドに聞けば、丁寧に説明してもらえます。



自治体職員

ボランティアガイドから、海外移住の歴史や日系社会の現状について説明を受けているのは、人権研修の一環として訪問された自治体職員の皆さん。



「移住先で苦労した日系人のことを知り、改めて、窓口に来られる外国籍の方々の気持ちに寄り添って対応したいと思いました」と感想を寄せてくださいました。

日系研修員



日本で研修する日系研修員たちは、来日して早い時期に当資料館を訪れます。英語やスペイン語の話せるボランティアガイドが丁寧に解説してくれるので、自分たちの祖先が大変な苦労をして日本から移住したことを聞きながら、感動して涙を流す研修員もいるようです。

学習プログラムのお問い合わせ

TEL:045-222-7161 FAX:045-222-7162
E-mail:jicayic-plaza1@jica.go.jp

海外移住資料館 学習プログラム

検索



海外移住資料館 周辺マップ



新館長ご紹介

くまがいみつこ

2018年11月15日付で熊谷晃子が新館長に就任しました。どうぞよろしくお願ひ致します。

今後の予定

- 3月10日(日) ドキュメンタリー映画『And then they came for us』上映
- 3月16日(土) 公開講座「ペルー日本人移民の歴史とマチュピチュ村を創った野内与吉の生涯」
- 3月23日(土) 公開講座「ペルー日本人移民の歴史とマチュピチュ村を創った野内与吉の生涯」
- 5月5日(日祝) ペルー民族音楽『フォルクローレ』の演奏

- 開館時間 10:00~18:00 (入館は17:30まで)
- 休館日 月曜日(月曜日が祝祭日の場合は翌日)と年末年始
臨時休館 4月14日(日)、30日(火)
- 入館料 無料

- みなとみらい線
「馬車道」駅(4番出口)から徒歩約8分
「みなとみらい」駅(クイーンズスクエア方面改札)から徒歩約15分
- JR線・市営地下鉄
「桜木町」駅から(汽車道→ワールドポーターズ→サークルウォーク)
徒歩約15分



独立行政法人国際協力機構 横浜センター
海外移住資料館

〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港2丁目3番1号 TEL.045-663-3257 FAX.045-222-7162

<https://www.jica.go.jp/jomm>

Eメール info@jomm.jp